

# 令和7年度 学校評価報告書 (自己評価書・学校関係者評価書)

令和8年1月30日作成

中期目標	重点努力目標 (評価項目)		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方針 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
開する 「魅力あふれる教育活動」を展開	子ども主体の授業や活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの思いを大切に子ども主体の授業や活動の展開</li> <li>児童自ら考え、楽しみながら取り組む「挨拶運動」</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの意識に沿った単元構想の授業実践を行うことで、意欲的に学習に取り組めた。</li> <li>地域の人材を活用した授業を積極的に行い、地域への思いが増した。</li> <li>地域のかたとの「挨拶運動」では、明るい挨拶ができ、人とのつながりを体験できた。</li> <li>ボランティアによる読み聞かせにより、感情の理解や共感性が促進された。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶運動の場面では元気が見られる。それ以外でも場に合った挨拶ができるように意識づけを進めてほしい。</li> <li>地域の人からの学びはとても効果的で学びの意欲を高めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの思いを大切に授業づくりを継続する。</li> <li>挨拶の意義を考える機会を設け、子ども主体の挨拶運動を展開する。</li> <li>地域行事への参加を児童や教職員によびかけるとともに学校行事への地域の参画を依頼する。</li> </ul>
	人とかかわる楽しさを味わえる活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢や地域の人と積極的に交流する授業や活動を展開</li> <li>読み聞かせや司書とのかかわりを増やすことによる図書館指導の充実</li> </ul>	A					
子どもの「生きる力」を育む	基礎基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>「新川スタンダード」「ICTの活用」「お話のわ」による基本的な知識や技能の定着</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な知識や技能は身につけてきている。授業や宿題等でICT活用を十分進められなかった。</li> <li>休み時間には多くの子どもが外遊びに親しみ、体力を高めている。</li> <li>各学年で地域に関わる学習を取り入れ、子どもに切実感をもたせることで、探究的な学習を進めることができた。</li> <li>地域のかたの授業への協力により、自分だけの考えでなく、さまざまな立場の人の思いを考慮した深い学びができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用の学習は有効であるが、それ以上に情報モラルの教育は不可欠である。</li> <li>木製遊具が復活し、外遊びの幅が広がった。</li> <li>学習発表会を通して子どもたちの学びの成長を確かめられた。</li> <li>CS熟議で子どもたちと校区の安全を改めて確認できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初だけでなく、年間を通して計画的に情報モラル教育を進める。</li> <li>なわとび台の整備などを進め、子どもが元気に遊び、体を動かす環境を整える。</li> <li>子どもが地域の問題に気づき、地域の人とともに解決を目指す単元の授業づくりを行う。</li> </ul>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>外遊びの励行</li> <li>体を動かす楽しさを味わえる体育の授業づくり</li> </ul>	A					
	「主体的・対話的で深い学び」の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの切実感を引き出す問題解決学習の推進と充実</li> <li>魅力ある教材の選定とともに、地域の教育力を活かした授業や活動の推進</li> </ul>	A					
信頼される教師集団を育てる	信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを丁寧にとらえ、教職員間で連携して支援</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの困り感に寄り添えるよう情報共有を進め、個別の支援の充実に努めた。</li> <li>新川コネットの協力により、子どもの安全な活動が支えられた。</li> <li>学校、保護者、地域が協力して学習支援や行事等を行うことで教育の質が向上した。</li> <li>新川小の現在の様子が保護者や地域に伝わるようホームページを毎日更新した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の協力を得ることで、地域全体で子どもたちを大切に育てていることを実感した。</li> <li>授業参観を通して教師と子どもの良好な関係が築かれていると感じた。</li> <li>先生とのコミュニケーションもとりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもや保護者が安心して相談できる信頼関係を継続する。</li> <li>教育支援委員会をさらに機能させ、子どもや保護者を継続的にサポートできる体制を整える。</li> <li>個別の支援が必要な子どもへの指導法について校内研修を行い、共通理解を図る。</li> <li>地域のかたと連携した授業実践を記録に残し、次年度以降も活用できるようにする。</li> </ul>
	地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールの在り方の研究・実践</li> <li>HP、学習発表会等での情報発信</li> </ul>	A					
安心安全な学校づくりを推進	児童支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>成功体験や認められる場を設定し、自己肯定感や自己有用感の向上</li> <li>組織的な個別支援の充実</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの会で一日を振り返る場を設け、お互いを認める気持ちを伝え合うことで、自己肯定感が高まった。</li> <li>現職研修では養護教諭らが講師となり、救急救命やAEDの使い方を学んだ。</li> <li>不意の避難放送で児童が速やかに避難行動をとれるようになってきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学に進学した生徒も不意の地震に適切に行動できており、小学校での防災教育の積み上げが感じられた。</li> <li>下校時に地震が発生した場合、適切な行動がとれるか不安が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の適切な指導の下、子ども主体で行う行事を企画し、学年に応じたやりがいや達成感を味わわせる。</li> <li>子どもとともに安全点検を行い、日常の中で危機管理意識を育てる。</li> <li>下校時についても防災の視点で確認や点検を行う機会を設ける。</li> </ul>
	緊急時対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルの見直しを図るとともに実践的な訓練の実施</li> </ul>	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】